

大阪・関西万博開催に向けた御意見

御所属 京都精華大学 学長 御名前 Oussouby SACKO (ウスビ・サコ) 様

1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非すべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

● 【社会モデルの提示】

- 万博は現在の社会課題を見据えつつ目指すべき未来社会と人間生活の新しいモデルを提示する絶好のチャンスである。現状に対する認識、未来に対する希望と個々人が果たせる役割を同時に提示することが可能である。地域紛争・格差・差別・世界経済と秩序の一極化が見られる反面、科学技術の飛躍的進歩、情報技術の革新的発展によって、我々人間同士の距離の取り方が変化してきた。本万博では、その背景を踏まえつつ「新」人間社会の未来像を提示する場にしたい。つまり、「個」を中心とした社会構造、多様性が尊重され、選択と責任のある生活、健康、仕事などの提案・メッセージを発信すべきである。

● 【生活モデルの提示】

- 関西エリアが持っている古い歴史、文化、知識と学問的な多様性を基にして、人文社会と技術の融合によって、「個」を中心とした未来社会と人間のあり方、それを取り巻く様々な環境（共同体、自然、文化など）やアクティビティモデル、つまり「人間がどこから来てどこへ向かっているか」をもう一度創造できる展示にしてほしい。

● 【SDGsの進捗状況と今後】

- SDGsの進捗状況を、工夫した展示手法でわかりやすく示す。また、ポストSDGsの社会を創造できる展示、希望ある未来社会へのメッセージを発信できる万博になってほしい。関西らしさである、伝統を重んじ、革新し続ける社会と技術を展示することをとおして、「個」を大切に、個を中心とする多様化社会の未来像を捉えられるものになると期待している。

● 【環境と自然への回答】

- 人間と自然の関係は未だに曖昧で、環境に対する配慮と取り組みもグローバルのレベルで不確定なまま。京都議定書、パリ協定など、いずれも進捗状況が見えないままである。それらを問い直し、未来への取り組みとして様々な環境対策（数値的・視覚的）を会場のいたるところでインタラクティブに展示・設置してほしい。

2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

(例：最先端技術の実証、SDGs達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

● 【都市モデル・社会モデル・生活モデルの展示】

- 人間社会の原点、近未来の人間社会が描かれるもの→「過去に学び未来を創造する」ことばの具現的な展示物。(参：1939 ニューヨーク万博(フューチャラマ))

● 【世界地図(ジオラマ・デジタル地図を含む)とSDGsの現状】

- SDGsの意味と目的に対する深い理解とこれから私たち一人ひとりに何ができるかなどの展示、ワークショップ、交流、ディスカッションの企画。SDGsの17のゴールと169のターゲットの個別的な説明、達成状況と来場者一人ひとりに何ができるかを創造する意識が持てる展示とワークショップの計画。また、各国の展示物がSDGsにどう対応するかを図式化し達成

度が数値化できるようにする。万博を通して世界が共通で解決すべき課題を共有する。

- グローバル化が進む中で多文化主義が否定されているように思われる。大阪・関西の寛容性を示すような、多文化への対応、もてなす姿勢を食、ファッション、宿泊施設などのコンテンツ（ハラールラーメン・ベジタリアン焼きそば、ビーガン懐石など）の提示と世界の様々な文化や生活習慣が体験できる（交流）コーナーを設ける。
- 万博の現場で差別、格差社会が意図せず表現されていることもある。本意ではない展示を行ってはならない。展示者の意思と何が伝えたいか、それをどのように伝えたいかをサポートすることが重要である。例：「アフリカ共同展示館」などを問い直してほしい。現在の世界の地域性、秩序の概念から脱却する会場計画を考えていただきたい。「明日」の未来社会が創造できる新たな切り口を持ち込みたい。

3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。

（例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等）

- これまでの万博では幾つかの「独立したテーマ」と国ごとのパビリオンで会場が構成されていることが多い。それらのテーマと各国との関連性が不明な場合も多い。できれば、メインテーマに対して各国の取り組み状況が一目で分かる情報（テーマ）スポットを作ってほしい。例：水上の世界地図が大きな模型から SDGs の取り組み現状がわかる。
- 新しい移動手段、会場案内と多様な言語に対応出来るツールが必要である。関西ならではの未来都市を創造するイメージで移動距離と移動手段を計画する。スマート化された多様な交通手段を導入することを視野に入れる（陸上、水上、空）。
- 入場と各アトラクション、ワークショップ、体験などのチケットをスマート化する（顔認識など）。それによって人の流れと待ち時間がコントロールできると思われる。しかし、待ち時間を含める展示内容の場合は、順番待ちの場所に「タッチスクリーン」「デジタル仮想スクリーン」などの「クリエイティブメディア」を導入し、個人化されたインターフェイスで展示内容の情報、バーチャルツアーができるようにする。また、従来の展示手法だけではなく、インタラクティブ型、仮想空間型の展示内容も導入すると、展示に多様性が生まれる。
- 開催中の天候、暑さ対策など、ドリンクなどの拠点を増やすことは重要ではあるが、人の関わりの中で行ってほしい。大阪や関西の様々な下町のイメージ、祭りの出店のイメージを複数の場所で再現し、そこで来場者へのもてなしとコミュニケーションをはかる。
- 誰にでも届く防災、災害対策が重要である。多言語化された自動翻訳、認識翻訳の導入。また、災害に関する世界共通の記号化と日本の迅速な対応のシステムを展示として導入し、また必要に応じて対応もする。日本で行われる避難訓練もグローバルでは重要な災害対策の事例になるかと思われる。

4. そのほか、御自由に御意見をお願いします。

- 地元の継続的な取り組みと国際展開のプラットフォーム形成。これまでの万博では、「一市町村一国フレンドシップ事業」が行われ、姉妹都市関係などが結ばれた例もあった。ただ、取り組みが一時的であり、継続的なものが少ない。今回は大阪・関西的なもてなしで関わり、地元と万博が互いに未来を見据えられるような関係性が残ることを期待している。
- 若者、社会、世界にとって希望が持てる未来を万博を通して感じられるようにしてほしい。